

7月定例教育委員会 会議録

- 1 開催日 平成25年7月11日(木)
- 2 開催場所 教育委員室
- 3 出席した委員 神吉委員長、吉田委員、桃田委員、森委員、石堂教育長
- 4 出席した職員 小田教育総務部長、松尾教育指導部長
大西教育総務部次長、諏訪教育指導部次長、
小林教育総務課長、西田学務課長、
坂根社会教育・スポーツ振興課長、
日浦学校教育課長、森山青少年育成課長、
石川教育研究所長、中塚教育総務課副課長
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事の要旨
 - 開 会 午後2時00分
 - 会議録署名委員指名のこと
神吉委員長、吉田委員に決定
 - 6月定例教育委員会会議録報告承認のこと
(事務局より会議録朗読報告)
承認
 - 会議公開の可否決定のこと
専決報告2「市立幼稚園長の委嘱について」は非公開とし、他は公開することに決定

(専決報告)

1 加古川市社会教育推進員の解職及び委嘱について

(教育指導部次長より説明)

承認

2 市立幼稚園長の委嘱について

承認

(議事を非公開とする)

◎ 次期定例教育委員会予定日のこと

8月8日(木)午後2時00分～ 教育委員室で開催することに決定

○ 教育委員諸報告

[神吉委員長より]

(1) 全国市町村教育委員会連合会について

7月5日(金)に東京で行われ、文部科学省の事業説明があった。大きく5つの説明があり、第二期教育振興基本計画について、教育行政の4つの基本的方向性という話があった。「社会を生き抜く力の養成」、「未来への飛躍を実現する人材の養成」、「学びのセーフティネットの構築」、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」という4つの基本方向を示している。その他、いじめ防止対策推進法の説明、土曜授業に関する検討チームの中間報告、理数教育の推進、就学事務について説明があった。

(2) 県教育長への要望書の提出及び懇談について

7月9日(火)に兵庫県の教育長室であった。特別支援教育の推進、問題行動や不登校への生徒指導の充実、学校図書館の機能強化と整備充実、学校保健・学校安全・学校給食及び食に関する指導の充実、管理職の管理職としての再任用、5点について重点的に要望した。

○ 教育長諸報告

(1) 平成25年第3回市議会(臨時会)について

7月29日(月)から7月31日(水)にかけて開催される。

(2) 平成25年第4回市議会(定例会)一般質問について

9月4日（火）より26日（木）まで開催される。主な内容は平成24年度決算の関係。

○ 教育総務部長諸報告

(1) 就学援助の申請受付について

就学援助の申請受付が、6月3日（月）から28日（金）まで行われた。受付件数は1,834件で、児童生徒数では、小学生1,726人、中学生1,014人、計2,740人となり、昨年比で134人の減である。認定結果は7月末に申請者に送付する予定である。

(2) 市内中学生にかかる事案について

対教師暴行容疑等で、市内中学生4名が逮捕された。

(3) 平成26年度採用 加古川市職員の募集結果について

平成26年度採用の加古川市職員募集を行い、幼児教育士の採用予定人数は、経験者を含めて10名程度となっている。95名の応募があり、倍率は9.5倍となっている。7月28日（日）に筆記試験、8月10日（土）、11日（日）に面接試験を実施する。

以上3件について報告

○ 教育指導部長報告

(1) 平成25年度中学校総合体育大会の実施について

加古川市、東播地区、兵庫県の中学校総合体育大会が実施される。

(2) 第42回加古川まつりについて

8月4日（日）の「花火大会」をはじめ、市内20会場の「おまつり広場」では、地域ごとに趣向を凝らしたおまつりを開催する。

(3) 平成25年度（第2回）社会教育委員会議の報告について

6月25日（火）に社会教育委員会議を開催した。

(4) 前期トライやる・ウィークの実施結果について

市内8中学が、6月3日（月）～6日7日（金）の日程で実施した。

- (5) 社会教育・福祉教育推進員小学校区代表者研修会の報告について
6月30日(日)、加古川市社会教育・福祉教育推進員小学校区代表者研修会を実施した。
- (6) 家庭教育セミナーⅠ『体験！チャレンジ！親子でスポーツ』の開催結果について
6月16日(日)、総合体育館で、家庭教育セミナーⅠ『体験！チャレンジ！親子でスポーツ』を開催した。
- (7) リバーキッズニュースの配布について
子どもへのイベント案内等、夏休み向けの内容を盛り込んだ情報誌を発行した。
- (8) 子どもの不登校を考えるつどいについて
7月31日(水)加古川市民会館小ホールで開催する。

以上、8件について報告。

委員：4月に新しく配属される教員はどのように決定されるのか。

事務局：年度当初に県から来年度の退職者等の調査がある。その際に市から県に要望を出している。

委員：採用者名簿から人を選ぶことはできるのか。できれば加古川市で働きたいという人を採用したい。

事務局：県が採用市町を決定している。淡路や但馬の人は学校が少ないので、地元で働けず、阪神間で働いている人が多数いる。

委員：阪神間で勤務した人が、加古川市に戻ってこられないのが問題である。加古川市を希望している人は、加古川市で働いてほしい。

委員：トライやる・ウィークについて、事前・事後に一般的な社会マナー等については指導があってもよいのではないか。

事務局： トライやる・ウィーク実施前には、各学校でマナー等についての事前指導は行っている。今後、活動に向けて意欲を高め、目的意識を明らかにする事前指導、また体験で学んだことをその後の生活に生かすための事後指導の更なる充実が求められている。

委員： 生徒の生活習慣の中で、挨拶や靴を揃えるといったことは学校に戻ってからでも生かせる。家庭教育でできていないことが社会教育では必要だということを先生が自覚し、事前・事後指導を行い、学校での生活に生かせれば、トライやる・ウィークはさらに意義が増すと考える。

委員： 加古川まつりと学校教育の連携はどのようにしているか。社会教育の分野だけであるのであれば、学校教育の分野にも波及させていただきたい。

事務局： お祭り広場は各地域が補助金を受けて自主的に行っている。公民館、PTA、学校含め、地域総ぐるみで行っている。

委員： 社会教育推進員が中心になるべきだと思う。

委員： 全国市町村教育委員会連合会の中で、理科の実験について、半額補助があるが、新しいことをするに際して、半額補助であれば、手をあげるところは少ないと思う。加古川市で独自に行っている事業に対して補助している事業はあるか。

事務局： 氷丘ユニットでは、防災に力をいれており、防災を全市に広めてもらうために、研究を進めている事業がある。また自主研究を進めるグループを募集し、補助もしている。

委員： 第2期教育振興基本計画の中で、絆づくりと活力あるコミュニティという話があったが、加古川市の特色ある教育はできないのか。

委員： 将棋のまち加古川市ということで、幼稚園の子どもに将棋を教えるのも良いと思う。将棋は礼儀や姿勢が学ぶことができ、集中力も身につくのではないかと思う。

委員：幼稚園の先生に負担がかかるので、地域の方に幼稚園へ来ていただき、幼稚園のクラブ活動として指導していただくとか、幼稚園が難しいのであれば、小学校の低学年にするなど、子ども達の成長を助けるという仕組みができるのではないかな。

委員：将棋協会が動物将棋の普及をしている。どこかの幼稚園がモデルとして実施すれば、良い部分が出てくる。

委員：幼児教育士の採用が去年と比べ、倍の10名となっているが、非常勤の先生を減らし、常勤の先生を増やしていく予定なのか、それともゆとりを持って、職員の数を増やしていくのか。

事務局：非正規の割合が多いので、正規の割合を増やしていきたい。

委員：不登校の子どもが、トライやるなら参加しているという話があったが、勉強がついていけなくて不登校になったケースや大人数の生活ができず不登校になったケースがあると思う。どういったケースが多いのか。

事務局：トライやるだけでなく、修学旅行や自然学校を通じ、不登校の子どもが学校に来るきっかけ作りをしている。何が原因ということではない。

委員：不登校の生徒は居場所がない。学校に居場所を確保することが必要だと考える。

○ 閉 会 午後3時17分